

2016年 日本鉱物科学会 渡航支援制度 成果報告

2016年年会研究発表優秀賞受賞者のうち2名の受賞者が支援を受けましたので、以下に成果の報告をします。

東京大学大学院理学系研究科 M2 木村皐史 (2016年年会研究発表優秀賞 受賞者)

1. 支援内容: International Winter School: Melting and fluid/melt-rock reactions in the mantle への参加 旅費
2. 場所: パビア (イタリア)
3. 日程: 2017年2月13-17日

内容詳細:

2017年2月にイタリアのパビアで開催された International Winter School, Melting and fluid/melt-rock reactions in the mantle に参加した。スクールでは様々な国の Ph.D. 学生らと寝食を共にしながら、マントル岩石学、地球化学等に関して基礎から最新の研究成果までの講義を受けた。また講義後にはポスターセッションが行われた。私は、島弧オフィオライトから制約できる上部マントルの熱史に関してポスター発表を行った。

自身にとって初の国際舞台であったため序盤は怖じ気づいたが、恥をかく覚悟が固まって以降は恐怖が消え、最終的に様々な国の研究者と議論し交流を深めることができた。また同世代の友人・ライバルもできた。この経験は私の国際性に関する姿勢を大いに刺激した。博士課程進学後もさらに研究に精進したい。スクールを紹介してくださった金沢大学の森下先生、海外渡航支援制度関係者の皆様に厚く御礼申し上げる。

東京大学大学院理学系研究科 D2 菊池亮佑 (2016年年会研究発表優秀賞 受賞者)

1. 支援内容: 16th International Clay Conference 学会発表 旅費
2. 場所: グラナダ
3. 日程: 2017年7月17日-21日

内容詳細:

スペインのグラナダにて開催された国際学会” 16th International Clay Conference” の Clay Minerals in Sediments: Paleoenvironment; Geodynamic Evolution and Sedimentary Basins のセッションにて Mineralogy and chemistry of biotite in the weathering profile of granitic rocks in the eastern part of Fukushima Prefecture, Japan という題目で口頭発表を行いました。この国際学会では自分の博士研究のテーマである花崗岩風化帯中の黒雲母の風化に関して、特にバーミキュライト化と層電荷の空間的關係に焦点を絞って発表しました。開催期間中は地球科学に留まらず、材料科学・計算科学を含めた他分野の粘土鉱物に関する最新の成果を知ることができ、非常に充実した5日間でした。X線回折や電子顕微鏡法など従来の分析手法にもまだまだ発展の余地を感じましたし、新しい分析方法に関する知識や今後の実験のアイデアを得ることができました。同時に、日本国内における粘土鉱物科学をより盛り上げていく必要性を再確認しました。このような貴重な発表機会を支援して頂いた日本鉱物科学会、並びに研究をご指導頂いた先生方に厚く御礼申し上げます。